

夢童

菅波 茂

07年11月30日。フィリピン
のルソン島南部に位置するア
ルバイ州レガスピ市で、「第
1回AMD A緊急救援担当者
会議」を開催した。昨年11月
30日〜12月1日の台風による
大雨で、レガスピ市周辺等で
大規模な泥流災害が発生し
た。さらに台風22号による被
害が加わり、死者約1500
人、340万人の被災者が発
生した。AMD A本部、イン
ドネシア支部、フィリピン支
部構成の多国籍医師団が緊急
救援活動を約3週間実施した
場所だ。地元医師会所属の医
師や医療機関所属の看護師
が、ボランティアとして巡回
診療に参加してくれた。地元
医療機関による宿舎提供はあ
りがたかった。AMD A名譽
顧問であり、元フィリピン医
師会長であるプリミティブ・
チュア医師の人的ネットワーク
クのお陰だった。

04年12月のスマトラ沖大地
震・津波のバンダ・アチエで
も同じことがあった。被災地
で唯一機能していた陸軍病院
の院長が第一次AMD Aイン
ドネシア救援医療チーム团长
パトゥルシ医師（現ハサヌ
ディン大学学長）の教え子だ
った。お陰で、AMD A多国
籍医師団は宿舎と食料を得
て、速やかに津波被災者の緊
急手術に従事できた。

11月30日、AMD A緊急救
援委員会長のインドネシア支
部長タンラ医師指導のもとに
会議が開催された。アジア10
カ国のAMD A支部、AMS
A（アジア医学生連絡協議会）
から約30人が参加した。災害
救援活動の経験豊かな参加者
による、真剣な討議が重ねら
れた。来るべき大災害に備え
て、「いかに迅速かつ大量の
医療専門職を被災地に送り込
み、効率のよい被災者救援医
療活動を実施するのか」が会
議の目的だった。その要で
ある災害コーディネーター
は、医療専門職に最大限の活

フィリピン・レガスピ「第1回AMD A緊急救援担当者会議」

動が可能な状況を提供する專
門職である。災害コーディネ
ーターに関するプロトコル
を作成した。アジアの災害医
療救援活動に対するコディ
ネーターと医療専門職員ネ
ットワークの構築は、09年10
月（AMD A設立25周年記念
会議）に完成予定である。残
り2年間の勝負である。

この会議には、もう一つの
決定事項がある。現在進行中
のバングラデシュの洪水被災
者救援活動に、会議参加支部
から医療チームを派遣するこ
とだ。本部、バングラデシュ、
インド、ネパール、インドネ
シア、フィリピン、韓国、台
湾等の支部のAMD A多国籍
医師団が、1カ月間バングラ
デシュ支部のコーディネート
のもと救援活動を続行するこ
とになった。

12月1日には、犠牲者に対
するAMD A「魂と医療のプ
ログラム」が行われた。AM
D A会議参加者に加えて、日
本側からは天理教の平野恭助
氏と関根慶三氏、フィリピン
側からは地元カソリック教会
の聖職者、フィリピン保健省
事務次官、レガスピ市長、レ
ガスピ市医療担当者、地元医
師会会長、ライオンズクラブ、
被災者だった地元住民ら多数
参加して実施された、3時間
にわたる厳粛な合同慰霊祭だ
った。住民の集いの場になる
「AMD Aピースセンター」
の寄贈も報告された。

06年2月に千人以上を瞬時
にして生き埋めにしたレイテ
島地滑り災害に対する緊急医
療支援活動の1年後には、フ
ィリピン保健省事務次官参加
のもとに、金光教平和センタ
ーと現地カソリック教会によ
る合同慰霊祭が実施された。
合同慰霊祭を実施したレガスピ
市のあるルソン島南部は、
レイテ島ともに「台風の通り
道」といわれている。両地に建
設された「AMD Aピースセ
ンター」は、「救える命があれ
ばどこへでも」とコインの裏
表である「AMD Aは必ず来
る」伝説創出への一里塚であ
る。（AMD A代表）